特集

# 妊娠合併症について

産婦人科医師
李　理華
【り・りふぁ】
・山口大学医学部：平成17年卒業
・産婦人科専門医
・医学博士
・周産期・新生児専門医

## はじめに

浜田医療センターは浜田市で唯一分娩ができる施設です。昨年は515件の分娩があり、これは島根県内でも島根県立中央病院に次ぐ、第2位の分娩件数でした。遠方から通ってこられる患者さんも多く、当院では全ての妊婦さんが安全にお産ができるための取り組みを行っています。今回、患者さんにも知って頂きたい妊娠、分娩に伴う合併症と、それに対する当院の取り組みをご紹介いたします。

## 日本で妊娠、分娩は安全なもの?

妊娠中や分娩前後における医療のレベルを評価する指標の一つに、妊産婦死亡率というものがあります。これは10万人の妊婦さんがお産をした時に、何人の方が亡くなっているかを示すもので、日本では3.4人／10万人（2016年）でした。世界的に見ても非常に少ない値ですが、それでも年間40-50人の妊婦さんが何らかの理由で亡くなっていることになります。死亡原因は高い順から、羊水塞栓症、心血管障害、肺塞栓症、脳出血といずれも発症すると、医療レベルの高い日本でさえ治療が非常に難しい病気です。一方で世界における妊産婦死亡率の平均は210人／10万人であり、その死亡原因は第1位に産科出血、第2位に妊娠高血圧症候群が続いており、この2つで4割以上のお母さんが命を落としています。では日本の妊婦さんは、この病気は起こさないのでしょうか？

実は、日本でも分娩に伴う出血、妊娠高血圧症候群はよく見られる疾患で、浜田医療センターでは昨年はそれぞれ14%、5%の妊婦さんが発症していました。母児共に命

の危険性をはらむ病気であり、それゆえに適切な対応が求められます。

## 産科出血について

妊娠中と出産前後の出血のことを言います。一番多い原因が、弛緩出血といって、出産後に特に多い産科出血の原因の7割をしめます。赤ちゃんが生まれたあとは、胎盤が子宮から剥がれて娩出されますが、この時子宮は強く収縮することで、胎盤が剥がれたあとの子宮からの出血を防ぎます。この時の子宮の収縮が弱く、出血量が増えてしまうことを弛緩出血と言います。また、産後出血には、出産時に起こる膣壁裂傷、頸管裂傷等も原因に挙げられます。

分娩直後の出血は、短時間で大量に起こるため、素早く人員を確保し、原因の検索と治療を行わなければいけません。浜田医療センターでは、分娩後出血に対応するためのシミュレーションを行う勉強会を行い、素早く適切な対応ができるためのトレーニングを開催しています。

患者さんにとっては、妊娠中の出血が一番気になるところだと思います。妊娠中の出血で、母子の命に関わるような原因には、胎盤が子宮の入り口を覆っている前置胎盤や、赤ちゃんが子宮内にいる間に胎盤が剥がれてきてしまう常位胎盤早期剥離などが挙げられます（図参照）。前置胎盤は、妊婦健診中に産婦人科医が定期に診察を行い、診断します。

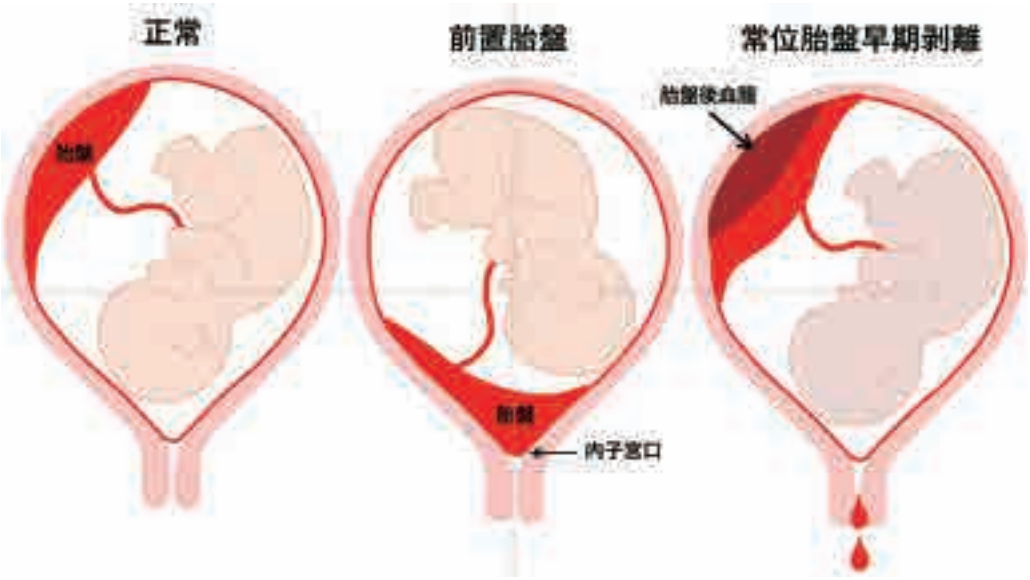
分娩は、経膣分娩ができないため帝王切開になりますが、大量出血した際には素早く手術できるように、早めの安静入院が必要となります。常位胎盤早期剥離は、分娩1000件中約6件に起こる希な病気ですが、急に発症して赤ちゃんの状態を悪くするだけでなく、母体の出血が止まりにくくなるという病態を引き起こすため、発症後なるべく早く診断し、赤ちゃんを子宮から出してあげることが必要です。急な腹痛、持続的な痛み、多めの性器出血などが代表的な症状ですが、これら症状を伴わないこともあるため、いつもと違う症状があり、気になるときは、当院産婦人科へ連絡し、相談して頂ければと思います。

## 妊娠高血圧症候群について

昔は妊娠中毒症と呼ばれていた病気です。妊娠中に高血圧や蛋白尿、赤ちゃんが平均より小さくなってしまう胎児発育不全等が認められるようになり、重症化すると子癇発作と呼ばれる全身の痙攣発作や、肝障害、腎障害などの多臓器障害を引き起こし、また前述の常位胎盤早期剥離のリスク因子でもあります。全妊婦の7-10%が発症し、その頻度が高いだけに日頃の妊婦健診が非常に重要です。健診時の血圧が上昇傾向であるとか、尿蛋白陽性の患者さんは十分に注意を払い、必要時は入院管理を行います。

根本的な治療は妊娠を中断すること=出産することですが、妊娠37週の満期に満たない時期の発症も多く、母体のリスクと、早産による赤ちゃんのリスクを考慮しながら分娩時期を決定する必要性があります。

異常分娩トレーニングの様子



【図】出血の原因となる胎盤の異常について

## 浜田地区に特有の問題点

遠方から受診されている患者さんで問題となるのが、病院に着くまでに間に合わず、分娩になってしまう院外出産です。遠方の患者さんについては、電話対応で早めの受診、早めの入院管理をさせてもらっていますが、それでも間に合わず自宅出産、もしくは救急車内分娩になってしまったという症例を経験したことがあります。この時、分娩に対応してくれるのは、救急救命士や消防隊の方々です。浜田医療センターでは、救急救命士や消防隊の方々でも、必要とされる最低限の分娩対応ができるようにシミュレーションによるトレーニングを行っています。本当の分娩を一度も経験したこのない方々も多い中、何とかその時に対応できるように、皆さん一生懸命トレーニングを受けられています。

## 患者さん、ご家族の方へ

浜田医療センターでは、ほとんどの患者さんが安全にご出産されています。そのためには、定期的な妊婦健診、必要時の入院管理が欠かせません。妊娠中の症状でなにか困ったこと、不安に思うことがありましたら、当院産婦人科へのご連絡をお願い致します。

浜田医療センター代表番号（0855-25-0505）から、以下につなげて頂けます。

平日 8:30 – 17:00：産婦人科外来
それ以外（土日休日を含む）：4階北病棟（産婦人科病棟）

産後出血トレーニングの様子

浜田消防署と院外分娩対応を取り組んでいる